(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第5812758号
(P5812758)

(45)発行日　平成27年11月17日(2015.11.17)　(24)登録日　平成27年10月2日(2015.10.2)

(51)Int.Cl.			F I		
G06F	3/048	(2013.01)	G06F	3/048	654A
G06F	3/0481	(2013.01)	G06F	3/048	652A
G06F	3/12	(2006.01)	G06F	3/048	657A
			G06F	3/12	336

請求項の数 12　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2011-180413(P2011-180413)
(22)出願日　平成23年8月22日(2011.8.22)
(65)公開番号　特開2013-45143(P2013-45143A)
(43)公開日　平成25年3月4日(2013.3.4)
審査請求日　平成26年8月19日(2014.8.19)

(73)特許権者　000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号
(74)代理人　100125254
弁理士　別役　重尚
(72)発明者　深澤　裕輔
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号　キヤノン株式会社内

審査官　猪瀬　隆広

最終頁に続く

(54)【発明の名称】情報処理装置及びその制御方法、並びにプログラム

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
操作画面を表示する表示部とハードキーとを備えた操作部を有する画像処理装置の遠隔操作を行うことが可能な情報処理装置であって、
前記画像処理装置と通信する通信手段と、
操作ボタンを含む画面を表示する表示手段と、
前記画像処理装置の表示部に表示されている操作画面に対応する第１の画面を前記表示手段に表示させる表示制御手段と、
遠隔操作で利用可能なボタンの有無を示すデバイス情報を複数保持すると共に、前記複数のデバイス情報の夫々に対応する複数のレイアウト情報を保持する保持手段と、
前記通信手段を介して通信する前記画像処理装置から受信した通信情報と前記複数のデバイス情報との比較結果に基づいて、前記保持手段によって保持された複数のレイアウト情報の中から、１つのレイアウト情報を選択する選択手段とを有し、
前記表示制御手段は、前記選択手段により選択された前記１つのレイアウト情報に基づき、前記画像処理装置の前記操作部が備えるハードキーに対応する操作ボタンを有する第２の画面を前記表示手段に表示させることを特徴とする情報処理装置。
【請求項２】
前記通信情報は、前記画像処理装置の表示部に表示される操作画面及び前記画像処理装置が備えるハードキーを特定するための情報を含む請求項１記載の情報処理装置。
【請求項３】

前記通信情報は、前記画像処理装置の表示部に表示される操作画面によって使用される色数の情報を含み、

前記表示制御手段は、前記通信情報に基づき、前記表示手段に表示させる前記第１の画面及び前記第２の画面の色数を判断することを特徴とする請求項１又は２記載の情報処理装置。

【請求項４】

前記通信情報は、前記画像処理装置が備えるハードキーの種類を示す情報を含む請求項１から３のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項５】

前記表示制御手段は、前記通信情報に基づいて、前記選択手段によって選択された前記第１のハードキーの画像を用いて、前記画像処理装置の操作部におけるハードキーのレイアウトに対応するレイアウトで前記第２の画面を表示させる請求項１から４のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項６】

前記ハードキーはテンキーを含む請求項１から５のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項７】

前記通信手段は、ネットワークを介して通信を行う請求項１から６のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項８】

前記第１の画面は、前記画像処理装置の表示部に表示されている操作画面と同じレイアウトを有する請求項１から７のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項９】

前記表示手段によって表示された第１の画面上の操作に従って、前記画像処理装置の表示部に表示されている操作画面に対して同じ操作がされたものとして前記画像処理装置を動作させ、

前記表示手段によって表示された第２の画面上の操作に従って、前記画像処理装置が備えるハードキーに対して同じ操作がされたものとして前記画像処理装置を動作させる制御手段を更に有する請求項１から８のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項１０】

前記画像処理装置は、ＭＦＰ、パーソナルコンピュータ、携帯情報端末の何れか一つである請求項１から９のいずれか１項に記載の情報処理装置。

【請求項１１】

操作画面を表示する表示部とハードキーとを備えた操作部を有する画像処理装置の遠隔操作を行うことが可能な情報処理装置の制御方法であって、

前記情報処理装置は、前記画像処理装置と通信する通信手段と、操作ボタンを含む画面を表示する表示手段とを備え、

前記画像処理装置の表示部に表示されている操作画面に対応する第１の画面を前記表示手段に表示させる表示制御工程と、

保持手段に、遠隔操作で利用可能なボタンの有無を示すデバイス情報を複数保持すると共に、前記複数のデバイス情報の夫々に対応する複数のレイアウト情報を保持する保持工程と、

前記通信手段を介して通信する前記画像処理装置から受信した通信情報と前記複数のデバイス情報との比較結果に基づいて、前記保持手段によって保持された複数のレイアウト情報の中から、１つのレイアウト情報を選択する選択工程とを有し、

前記表示制御工程で、前記選択工程において選択された前記１つのレイアウト情報に基づき、前記画像処理装置の前記操作部が備えるハードキーに対応する操作ボタンを有する第２の画面を前記表示手段に表示させることを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項１２】

請求項１１記載の制御方法をコンピュータに実行させるためのコンピュータプログラム

。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、情報処理装置及びその制御方法、並びにプログラムに関し、特に、遠隔操作を行う情報処理装置及びその制御方法、並びにプログラムに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来の技術には、情報処理装置であるＰＣ等のクライアントから、ＭＦＰ等のデバイスの遠隔操作を行うために、デバイスの操作部の画像をクライアントの表示部に表示し、遠隔操作を可能にしたものがある（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００５－３１３４１３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、従来技術においては、複数のデバイスに対応するために、クライアント側のアプリケーションで、デバイス毎のＵＩレイアウト情報を全て保持する必要があった。そのため、新しいデバイスが発売されるたびに、クライアント側のアプリケーションのＵＩレイアウト情報のメンテナンス（更新等）を行う必要があった。
【０００５】
本発明の目的は、新しい画像処理装置が発売されるたびに情報処理装置をメンテナンスする必要なく、その画像処理装置を遠隔操作することができる情報処理装置及びその制御方法、並びにプログラムを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記目的を達成するために、請求項１の情報処理装置は、操作画面を表示する表示部とハードキーとを備えた操作部を有する画像処理装置の遠隔操作を行うことが可能な情報処理装置であって、前記画像処理装置と通信する通信手段と、操作ボタンを含む画面を表示する表示手段と、前記画像処理装置の表示部に表示されている操作画面に対応する第１の画面を前記表示手段に表示させる表示制御手段と、遠隔操作で利用可能なボタンの有無を示すデバイス情報を複数保持すると共に、前記複数のデバイス情報の夫々に対応する複数のレイアウト情報を保持する保持手段と、前記通信手段を介して通信する前記画像処理装置から受信した通信情報と前記複数のデバイス情報との比較結果に基づいて、前記保持手段によって保持された複数のレイアウト情報の中から、１つのレイアウト情報を選択する選択手段とを有し、前記表示制御手段は、前記選択手段により選択された前記１つのレイアウト情報に基づき、前記画像処理装置の前記操作部が備えるハードキーに対応する操作ボタンを有する第２の画面を前記表示手段に表示させることを特徴とする。
【発明の効果】
【０００７】
本発明によれば、複数ラインナップのあるデバイスに対しても、遠隔操作で利用可能なボタンの有無により、情報処理装置内に少ないデータを保持しておくだけで各ラインナップのデバイスの遠隔操作が対応可能となり、新しい画像処理装置が発売されるたびに情報処理装置をメンテナンスする必要なく、その画像処理装置を遠隔操作することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】本発明の実施の形態に係るクライアントを含む遠隔操作システムの概略構成を示す図である。

【図２】図１におけるクライアントの概略構成を示す図である。
【図３】図１におけるデバイスの概略構成を示す図である。
【図４】図１におけるデバイスとクライアントで通信するためのソフトウェアを示す図である。
【図５】図４における遠隔操作クライアントアプリケーション、及び遠隔操作サーバアプリケーションの詳細構成を示す図である。
【図６】操作パネル・ハードキー画面表示部により表示された画面を示す図である。
【図７】ソフトキーの一例を示す図である。
【図８】ソフトキーの一例を示す図である。
【図９】図１におけるクライアント及びデバイスにより実行されるソフトキー表示処理の手順を示すフローチャートである。
【発明を実施するための形態】
【０００９】
以下、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳述する。
【００１０】
図１は、本発明の実施の形態に係るクライアント１０１を含む遠隔操作システム１００の概略構成を示す図である。
【００１１】
管理者１０２は、画像処理装置であるデバイス１０４とネットワーク１０３で接続されているクライアント１０１（情報処理装置）を利用して、デバイス１０４の遠隔操作ができる。
【００１２】
クライアント１０１は、ＰＣであり、ハードキーボードおよびマウスが接続されている。ハードキーボードのキー配列や、マウスのクリック可能なボタン数など、ハードウェアの形態は問わない。
【００１３】
本実施の形態では、マウスが１ボタンや３ボタンであった場合でも、後述する特殊画面遷移キー操作の設定情報において、デバイス１０４に対するキー割り当てを変更することで、非公開モード画面への遷移操作に対応可能である。
【００１４】
図２は、図１におけるクライアント１０１の概略構成を示す図である。
【００１５】
クライアント１０１はキーボード１３２やマウス１３３のようなポインティングデバイスなどの入力装置、及びディスプレイ１４４が接続される。なお、キーボード１３２は、ハードキーボードである。入出力インタフェイス１３８はクライアント１０１をネットワーク１０３に接続して他のコンピュータやデバイス１０４に接続することができる。そのネットワーク１０３の典型はローカルエリアネットワーク（ＬＡＮ）、あるいはワイドエリアネットワーク（ＷＡＮ）である。
【００１６】
このように、クライアント１０１は、デバイス１０４を遠隔操作するための画面を表示するディスプレイ１４４（表示手段）を備えている。
【００１７】
クライアント１０１は典型的な少なくとも１つのＣＰＵ１３５を備える。また、クライアント１０１は、例えば半導体のランダムアクセスメモリ（ＲＡＭ）、リードオンリーメモリ（ＲＯＭ）から構成されるメモリユニット１３６を備える。さらに、クライアント１０１は、ビデオインタフェイス１３７、キーボード１３２やマウス１３３のための入出力インタフェイス１４３を備える。
【００１８】
記憶装置１３９は典型的なＨＤＤ１４０やフレキシブルディスクドライブ１４１を含んでいる。図には示されていないが磁気テープドライブなどもまた使用される可能性がある

。ＣＤ－ＲＯＭドライブ１４２は不揮発性のデータソースとして提供される。
【００１９】
上述した各構成要素はＬＩＮＵＸやマイクロソフトウィンドウズ（登録商標）のようなオペレーションシステムや相互接続バス１３４を介して通信を行う。
【００２０】
本実施の形態で説明されるフローチャートで示された手順を実現するソフトウェアは例えば上記に記述されるような記憶装置を含むコンピュータの可読媒体に格納される。ソフトウェアはコンピュータの可読媒体からコンピュータにロードされ、クライアント１０１のＣＰＵ１３５によって実行される。そのコンピュータでコンピュータプログラム製品を使用することによりドキュメントのレイアウト編集に有利な装置として作動することができる。
【００２１】
図３は、図１におけるデバイス１０４の概略構成を示す図である。本実施の形態におけるデバイス１０４はＭＦＰを例に説明するが、デバイス１０４はＭＦＰ以外であっても構わない。
【００２２】
図３において、ＣＰＵ１６０を含む制御部１５８は、デバイス１０４全体の動作を制御する。ＣＰＵ１６０は、ＲＯＭ１６１に記憶された制御プログラムを読み出して読取制御や送信制御などの各種制御処理を実行する。
【００２３】
ＲＡＭ１６２は、ＣＰＵ１６０の主メモリであり、またワークエリアなどの一時記憶領域として用いられる。ＨＤＤ１５９は、画像データや各種プログラムを記憶する。制御部１５８は、操作部１５２、スキャナ部１５３、プリンタ部１５４の動作を制御する。
【００２４】
操作部１５２には、タッチパネル機能を有する液晶表示部や各種のハードキー（テンキーや各機能に対応したボタン等の操作ボタン）や、キーボードなどが備えられている。
【００２５】
プリンタ部１５４は制御部１５８から入力された印刷すべき画像データを記録媒体上に印刷する。
【００２６】
スキャナ部１５３は、原稿上の画像を読み取って画像データを生成し、制御部１５８に入力する。
【００２７】
インタフェイス部１５６は、制御部１５８をネットワーク１０３に接続し、ネットワーク上の例えば情報処理装置から印刷用の画像データを受信したり、操作部１５２で表示する画面データを受信したりする。
【００２８】
また、ＵＳＢインタフェイス１６３を介して、ＩＣカードリーダーやメモリスティックに接続し、認証情報や画像データを受信することもある。
【００２９】
なお、情報処理装置などから受信した印刷画像は画像メモリ１５７に一時的に格納され、制御部１５８を介してプリンタ部１５４で印刷される。
【００３０】
図４は、図１におけるデバイス１０４とクライアント１０１が互いに通信するためのソフトウェアを示す図である。
【００３１】
図４において、クライアント１０１の遠隔操作クライアントアプリケーション２００は、デバイス１０４内の遠隔操作サーバアプリケーション２０１とネットワーク１０３を介して接続し、これにより双方向で通信を行うことが可能となっている。
【００３２】

図５は、図４における遠隔操作クライアントアプリケーション２００、及び遠隔操作サーバアプリケーション２０１の詳細構成を示す図である。

【００３３】

図５において、遠隔操作クライアントアプリケーション２００は、操作パネル・ハードキー画面表示部３００、操作パネル・ハードキー画面操作受付部３０１、受付データ変換部３０２、及びクライアントデバイス通信部３０３で構成される。

【００３４】

操作パネル・ハードキー画面表示部３００は、利用者がクライアントから操作するための表示部である。

【００３５】

図６は、操作パネル・ハードキー画面表示部３００により表示された画面を示す図である。

【００３６】

図６では、操作パネル画面４００、及びソフトキー４０１の２つの画面から構成されている。操作パネル画面４００は、デバイス１０４の操作部１５２の液晶表示部に表示される画面であり、ソフトキー４０１は、デバイス１０４の操作部１５２に備えられたハードキーに対応する。操作パネル画面４００とソフトキー４０１は何れもクライアント１０１のディスプレイ１４４に表示される画面である。このソフトキー４０１では、操作パネル画面４００に対応してメインメニュー４０２が表示される。さらに、ソフトキー４０１では、節電ボタン４０３及びカスタムボタン４０４が表示される。

【００３７】

図５に戻り、操作パネル・ハードキー画面操作受付部３０１は、操作パネル画面４００、及びソフトキー４０１に対して、マウス１３３やキーボード１３２などの入力端末から受け付けた情報を保持する部分である。

【００３８】

受付データ変換部３０２は、操作パネル・ハードキー画面操作受付部３０１で受け付けた情報を、遠隔操作サーバアプリケーション２０１へ送信するためのデータ構造に変換する。

【００３９】

クライアントデバイス通信部３０３は、受付データ変換部３０２で変換したデータを、遠隔操作サーバアプリケーション２０１へ送信するとともに、遠隔操作サーバアプリケーション２０１からの情報を受信する。

【００４０】

次いで、遠隔操作サーバアプリケーション２０１は、操作パネル・ハードキーイベント受付部３０４、操作パネル表示部３０５、クライアントからの操作パネル・ハードキー操作反映部３０６で構成される。

【００４１】

さらに、遠隔操作サーバアプリケーション２０１は、クライアントからの操作パネル・ハードキー操作受付部３０７、クライアントデバイス通信部３０８、及びデバイス情報保持部３０９で構成される。デバイス情報保持部３０９は、デバイス１０４に表示される操作画面、及びデバイス１０４の操作部が備える操作ボタンに関する操作画面関連情報である。

【００４２】

操作パネル・ハードキーイベント受付部３０４は、操作パネル表示部３０５、及びデバイス１０４に搭載されているハードキーからの入力情報を受け付ける部分である。

【００４３】

クライアントからの操作パネル・ハードキー操作反映部３０６は、クライアントからの操作パネル・ハードキー操作受付部３０７で受け付けたデータを用いて処理する。

【００４４】

具体的に、クライアントからの操作パネル・ハードキー操作反映部３０６は、操作パネ

ル表示部３０５、及びデバイス１０４に搭載されているハードキーから入力された状態と同様の処理を行う。

【００４５】

例えば、ソフトキー４０１から番号１のボタンが押下された場合、デバイス１０４のハードキーの番号１が入力された状態と同様の処理が行われることとなる。

【００４６】

クライアントデバイス通信部３０８は、遠隔操作クライアントアプリケーション２００のクライアントデバイス通信部３０３と双方向通信を行う。

【００４７】

そして、クライアントデバイス通信部３０８は、クライアント１０１に対してデバイス情報保持部３０９の情報を送信する。さらに、クライアントデバイス通信部３０８は、クライアントデバイス通信部３０３から、操作パネル画面４００、及びソフトキー４０１での入力情報を、受付データ変換部３０２により変換されたデータの受信を行う。

【００４８】

図７は、クライアント１０１のディスプレイに表示される、デバイス１０４を遠隔操作するための画面の一例を示す図である。

【００４９】

図７において、操作パネル５００は、デバイス１０４の操作部１５２の液晶表示部に表示される画面を示している。この画面は、色数が８ｂｉｔとなっている。この場合、デバイス情報保持部３０９から取得した情報により、色数が８ｂｉｔであると判断される。従って、クライアント１０１で表示されるソフトキー５０１は、図６に示したソフトキー４０１とは異なる画面レイアウトとなる。また、ソフトキー５０１には、節電ボタン５０２、及びカスタムボタン５０３が表示されている。

【００５０】

図８は、クライアント１０１のディスプレイに表示される、デバイス１０４を遠隔操作するための画面の他の一例を示す図である。

【００５１】

図８において、操作パネル６００は、デバイス１０４の操作部１５２の液晶表示部に表示される画面を示している。この画面は、メインメニューボタン６０３が操作パネル６００内に包含されている。

【００５２】

この場合、デバイス情報保持部３０９から取得した情報により、受付可能なキーデータとして、メインメニューが存在しないため、ソフトキー６０１は、ソフトキー４０１と異なり、メインメニューボタンに対応するボタンが存在しない画面レイアウトとなる。

【００５３】

このように、遠隔操作サーバアプリケーション２０１のデバイス情報保持部３０９から取得した情報を元に、ソフトキー４０１、５０１、６０１のようにレイアウトを動的に変更することが可能となる。

【００５４】

遠隔操作クライアントアプリケーション２００は、どのようなデバイス情報の場合にどのようなソフトキー４０１、５０１、６０１などを表示するかを、予め例えばＨＤＤ１４０に記憶している以下のデータを用いて決定する。

・デバイス情報が「メインメニューボタンあり、ＲＧＢ３２」のとき、ソフトキー４０１を表示する。

・デバイス情報が「メインメニューボタンなし、ＲＧＢ８」のとき、ソフトキー５０１を表示する。

・デバイス情報が「メインメニュー、カスタムボタン、節電ボタンなし、ＲＧＢ３２」のとき、ソフトキー６０１を表示する。

【００５５】

すなわち、上記データとデバイス１０４からのデバイス情報とを比較し、クライアント

１０１側に表示する画面を決定する。このように、クライアント１０１は、種類の異なるデバイス１０４に表示される各々の操作画面に対応する操作画面画像、及びデバイス１０４の操作部が備える操作ボタンに対応するボタン画像が予め記憶された記憶手段（ＨＤＤ１４０）を備える。操作画面を示す操作画面関連情報は、例えば「ＲＧＢ３２」であり、操作部が備える操作ボタンを示す操作画面関連情報は、例えば「節電ボタン」である。

【００５６】

以上より、複数ラインナップのあるデバイスに対しても、遠隔操作で利用可能なボタンの有無や、色数などの組み合わせにより、遠隔操作クライアントアプリケーション２００内に上記のような少ないデータを保持しておくだけで対応可能となる。

【００５７】

図９は、図１におけるクライアント１０１及びデバイス１０４により実行されるソフトキー表示処理の手順を示すフローチャートである。

【００５８】

このソフトキー表示処理は、クライアント１０１のＣＰＵ１３５、及びデバイス１０４のＣＰＵ１６０により実行される。

【００５９】

図９において、ＣＰＵ１３５は、ＨＤＤ１４０に格納された遠隔操作クライアントアプリケーション２００を起動する（ステップＳ７０１）。次いで、ＣＰＵ１３５は、ＨＤＤ１４０にデバイス情報が存在するか否か判別する（ステップＳ７０２）。

【００６０】

ステップＳ７０２の判別の結果、デバイス情報が存在しないとき（ステップＳ７０２でＮＯ）、ＣＰＵ１３５は、予め用意されたデフォルトのソフトキーを表示し（ステップＳ７０５）、本処理を終了する。

【００６１】

一方、デバイス情報が存在するとき（ステップＳ７０２でＹＥＳ）、ＣＰＵ１３５は、ＨＤＤ１４０からデバイス情報を読み込む（ステップＳ７０３）。

【００６２】

次いで、ＣＰＵ１３５は、デバイス１０４に接続する（ステップＳ７０４）。デバイス１０４のＣＰＵ１６０は、ＨＤＤ１５９にあるデバイス情報保持部３０９より、デバイス情報をクライアント１０１へ送信する（ステップＳ７０６）。

【００６３】

ＣＰＵ１３５は、送信されたデバイス情報を取得する（ステップＳ７０７）。そして、ＣＰＵ１３５は、上記ステップＳ７０３で読み込んだデバイス情報と、ステップＳ７０７で取得したデバイス情報とを比較する（ステップＳ７０８）。

【００６４】

この比較により、表示すべきソフトキーのレイアウトが決定するので、表示すべきソフトキーをディスプレイ１４４に表示するように制御し（ステップＳ７０９）、本処理を終了する。

【００６５】

図９によれば、取得された操作画面関連情報に示される操作ボタンに対応するボタン画像、及び前記操作画面に対応する操作画面画像をＨＤＤ１４０から読み出し、読みだしたボタン画像、及び操作画面画像を表示するようにディスプレイ１４４を制御する。その結果、画像処理装置を遠隔操作する情報処理装置が、遠隔操作するための画面を画像処理装置ごとに備えることなく表示可能となる。

【００６６】

また、遠隔操作クライアントアプリケーション２００側でデバイス毎のＵＩレイアウト情報を保持する必要がなくなる。その結果、新しいデバイスが発売されるたびに、クライアント側アプリケーション側のＵＩレイアウト情報のメンテナンスを行う必要もなくなる。従って、メンテナンス性、汎用性が向上するという効果も得られる。

【００６７】

（他の実施の形態）

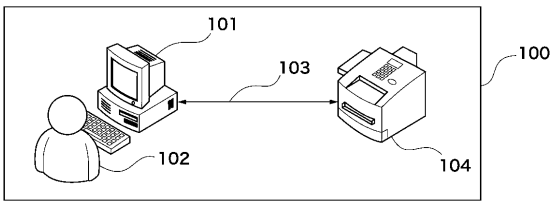
本発明は、以下の処理を実行することによっても実現される。即ち、上述した実施形態の機能を実現するソフトウェア（プログラム）をネットワーク又は各種記憶媒体を介してシステム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ（又はＣＰＵやＭＰＵ等）がプログラムコードを読み出して実行する処理である。この場合、そのプログラム、及び該プログラムを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【符号の説明】

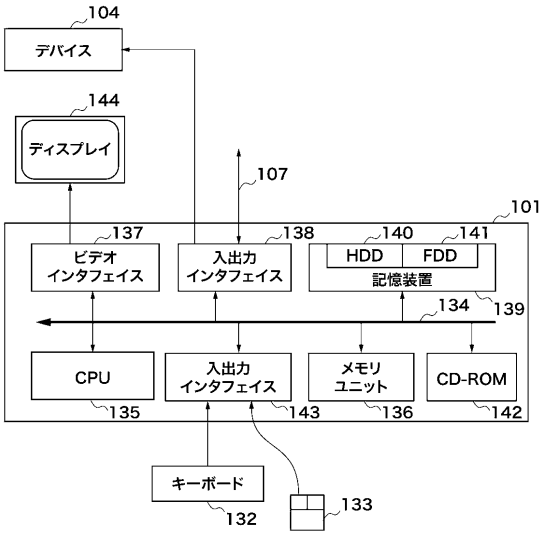
【００６８】

１００　遠隔操作システム
１０１　クライアント
１０３　ネットワーク
１０４　デバイス
１３２　キーボード
１３３　マウス
１３５、１６０　ＣＰＵ
１３６　メモリユニット
１３９　記憶装置
１５２　操作部
１５３　スキャナ部
１５４　プリンタ部
１５７　画像メモリ
１５８　制御部
１５９　ＨＤＤ
１６１　ＲＯＭ
１６２　ＲＡＭ
１５６　インタフェイス部
２００　遠隔操作クライアントアプリケーション
２０１　遠隔操作サーバアプリケーション
３０９　デバイス情報保持部

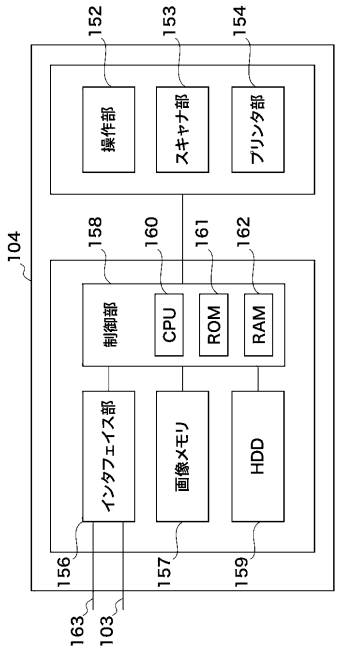
【図１】



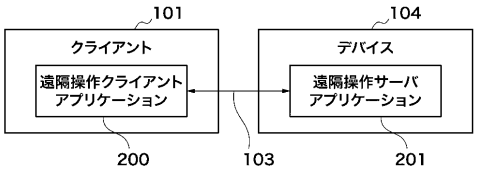
【図２】



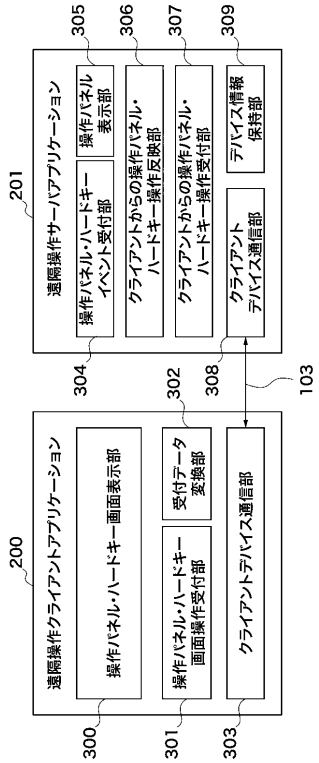
【図３】



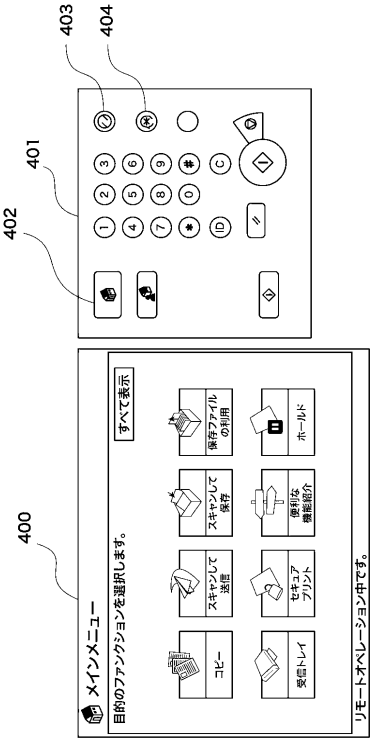
【図４】



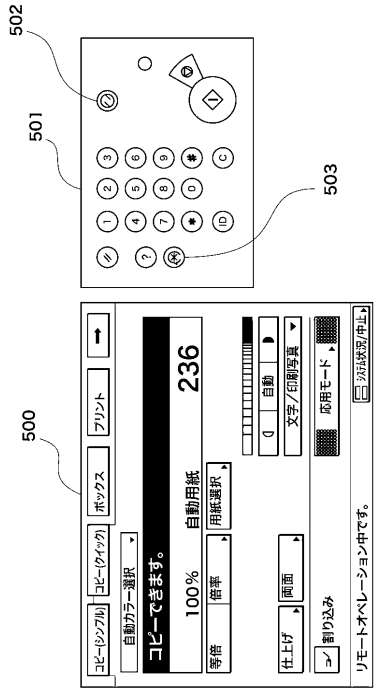
【図５】



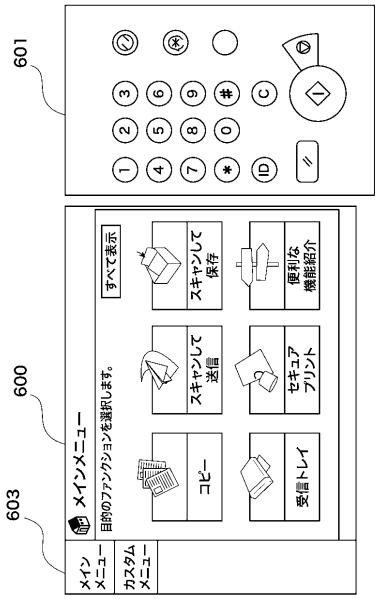
【図６】



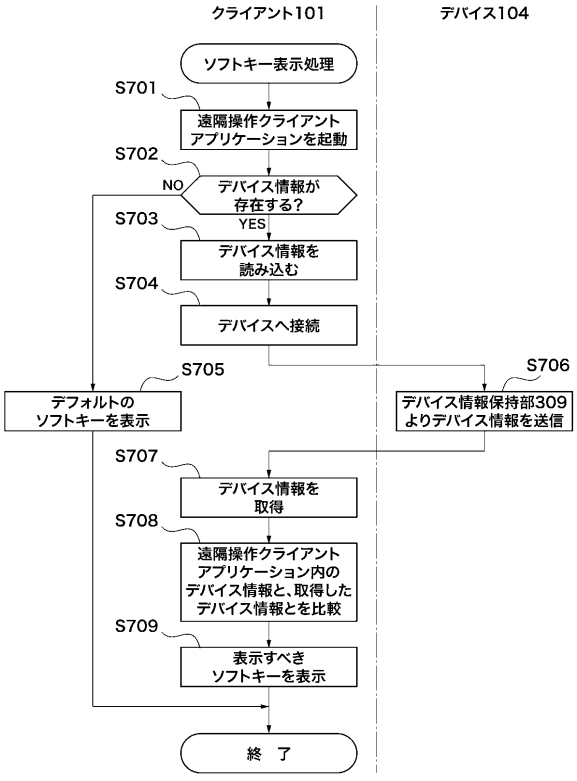
【図７】


502
501
503
500
コピー(シンプル)
コピー(クイック)
ボックス
プリント
自動カラー選択
コピーできます。
236
100%
自動用紙
用紙選択
等倍
倍率
仕上げ
両面
割り込み
自動
文字/印刷写真
応用モード
ジョブ状況/中止
リモートオペレーション中です。

【図８】


601
600
603
メインメニュー
目的のファンクションを選択します。
すべて表示
コピー
スキャンして保存
スキャンして送信
セキュアプリント
受信トレイ
便利な機能紹介
メインメニュー
カスタムメニュー

【図９】


クライアント101
デバイス104
ソフトキー表示処理
S701
遠隔操作クライアントアプリケーションを起動
S702
NO
デバイス情報が存在する?
YES
S703
デバイス情報を読み込む
S704
デバイスへ接続
S705
デフォルトのソフトキーを表示
S706
デバイス情報保持部309よりデバイス情報を送信
S707
デバイス情報を取得
S708
遠隔操作クライアントアプリケーション内のデバイス情報と、取得したデバイス情報とを比較
S709
表示すべきソフトキーを表示
終 了

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００８－０７１３１３（ＪＰ，Ａ）
特開２０１１－１３９３１２（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－２３５９６２（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－０２３６８０（ＪＰ，Ａ）
米国特許出願公開第２０１１／０１２８２４７（ＵＳ，Ａ１）
特開２０１１－１１８５８４（ＪＰ，Ａ）
特開２００６－１４０８９８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｇ０６Ｆ　　３／０４８
Ｇ０６Ｆ　　３／０４８１
Ｇ０６Ｆ　　３／１２